

平成 23 年度 小平市立小平第三小学校学校経営方針

小平市立小平第三小学校
校長 古川 正之

1 はじめに

教育の目的は、子どもたちに真の学力（将来幸福に生きるための力）を育成することである。「社会のための教育ではなく、教育のための社会をつくること」が私たちの願いである。

すべての保護者は子どもをよりよく育てたいと望んでおり、子どもたちを地域の宝と期待している地域住民がいる。また、教職員も子どもの成長を願っており、「学校は子どものためにある。」ということの大前提として、学校づくりを行う。

2 学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法の精神および人間尊重の精神を基盤に、国際社会に貢献する日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環ととらえ、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。

考える子	よく聞き、よく考え、よく判断し、自ら行動できる子
やさしい子	互いの立場や相手のよさを認め合う思いやりのある子
元気な子	健康で、生き生きと活動できる子

学年経営・学級経営・専科経営・保健室経営をはじめ全教育活動の場で、学校の使命である教育目標の達成を目指していくとともに、家庭・地域社会に信頼される学校教育を創造していく。

3 目指す学校の姿

子どもたちの笑顔が輝く学校
— 新しい教育活動の創造 —

- (1) 学習指導要領の理念を踏まえ「21世紀を切り拓く日本人」を育成する学校
 - ① 学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた子どもをつくる（育成する）。
 - ② 改訂の趣旨を共通理解し、情熱をもって取り組む教職員集団をつくる。
- (2) 地域とともに育てる教育を推進する学校
 - ① 近隣の中学校や幼稚園・保育園と連携し、共通理解を図って教育をつくる。
 - ② CSのよさを生かし、充実した教育活動をつくる。
- (3) 市民や都民から信頼される学校
 - ① 子どもたちが「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感できる教育活動をつくる。
 - ② 誇りと自信をもって働くことのできる職場をつくる。

4 実現のための方策

「子どもたちにとっての最大の教育環境は、教師自身である。」との信念のもと、教職員一人一人のさらなる資質向上と能力開発を図り、試練を乗り越え信頼回復に取り組む。また、組織的・機動的に教育活動を実践していく学校体制を持続する。さらに、保護者・地域の方との連携を推進し、教育環境の充実に努める。

(1) 重点課題

	重点課題	課題解決のための方策
学校	◎学習指導要領完全実施に対応する教育活動を確立する。 ◎幼保・小・中連携を推進する。	○新しい学習指導要領（教科書）に沿った指導計画と、評価規準を作成する。 ○15歳のあるべき姿と、学年毎に身につける内容を明確にする。
児童	◎21世紀を切り拓いていく力を身につけさせる。	○他者との人間関係を築く教育活動を展開する。
家庭・地域	◎子どもの健全育成を推進する。	○CSと連携し、仮称（学校支援サポートネット）を設置する。

(2) 目標および達成のための方策〔教員〕

	目 標	方 策
学習指導	①確かな学力の定着と伸長を目指す。 ②学習に対する意欲を高める。 ③個に応じた指導を推進する。	①-1基礎・基本的な知識・技能にかんするワークテストの評価8割以上を目指す。 ①-2「全国学力調査」や「都の新学力調査」を活用し、各学年の学習内容を確実に身につけさせる。 ②-1問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れていく。 ②-2他者、社会、自然・環境と関わる体験的な学習を増やす ③-1授業の中に、個別指導の時間をとる。 ③-2長期休業中等の補習学習の充実に努める。
生活指導 進路指導	①子どもの自尊感情や自己肯定感を高める。 ②子どもの規範意識を高める。 ②不登校児童0を目指す。	①-1子どものよさを認め誉めて伸ばす指導に、全校で取り組む。 ①-2望ましい生活リズムや習慣について、保護者会等を活用して共通理解を図る。 ②-1「三小のきまり」についての詳しいマニュアルを確認し、全学級で徹底する。 ②-2あいさつや、授業の開始時刻と終了時刻など時間をまず教師から励行する。 ③-1いじめの早期発見と早期解決を図る。 ③-2不登校児童については、週1回の家庭への連絡と、月1回の家庭訪問を行う。

	<p>④保健に関する指導の充実を図る。</p> <p>⑤給食に関する指導の充実を図る。</p> <p>⑥特別支援教育が必要な児童に対して、全校でかかわり取り組む。</p>	<p>④－１「手洗い・うがい・換気」の徹底を図り学級閉鎖０を目指す。</p> <p>④－２身体測定の手続きや授業などを活用し、指導の徹底を図る。</p> <p>⑤－１食育の指導計画に沿った教育活動に取り組む。</p> <p>⑤－２「手洗い・身支度」の徹底を図り、安全な給食の意識を高める。</p> <p>⑥－１校内委員会を定期的開催し、共通理解するとともに、教員の資質向上を図る。</p> <p>⑥－２ＳＣや教育相談室などの関係諸機関や、サレジオ学園との連携を強化する。</p>
学校運営	<p>①諸会議がスムーズに行なわれるようにする。</p> <p>②１年間を通してメリハリのある職務を実現する。</p> <p>③職務の適正な進行管理と確実な職務遂行を図る。</p> <p>④学年の機能の向上を図る。</p> <p>⑤安全・安心な学校をつくる。</p> <p>⑥仕事と家庭の両立に支援できる体制を整える。</p>	<p>①－１事案決定の徹底と、会議の開始終了時刻を厳守する。</p> <p>①－２役割分担を明確にする。</p> <p>②－１学年主任会の充実を図る。</p> <p>②－２長期休業中は、ノー残業デーとする。</p> <p>③－１主幹及び各主任は、週毎・月毎の達成状況を把握するとともに、課題を整理する。</p> <p>③－２学校評価を生かした計画・実施を行う。</p> <p>④－１担任・専科等が協力して、校務にあたる。</p> <p>④－２原則学年担当は、２年間のスパンで児童の指導にあたる。</p> <p>⑤－１定期的な施設・設備の総点検を行う。</p> <p>⑤－２避難訓練の改善を図り、さらに徹底する。</p> <p>⑥－１長期休業中もふまえ、１年間の職務の効率化と協働を図り、年間２０日間の年休をとりやすくする。</p> <p>⑥－２学年会の時間を確保する。</p>
特別活動 その他	<p>①児童一人一人の自主性の伸長を図る。</p> <p>②家庭・地域との連携をさらに図る。</p>	<p>①－１きょうだい学級の活動を充実させる。</p> <p>①－２委員会の活動を見直し、児童の主体的な態度を育成する。</p> <p>②－１連絡をこまめに行い、家庭教育の実態を把握し、支援策を立てる。</p> <p>②－２地域の行事へ１回以上参加し、積極的にかかわる。</p>
研究 ・研修	<p>①校内研究の見直しを図る。</p> <p>②教員の資質向上を図る。</p>	<p>①－１新学習指導要領の趣旨を理解する。</p> <p>①－２研究内容と組織を見直す。</p> <p>②－１若手と中堅がペアを組み、学習指導計画を作成する。</p> <p>②－２年１回以上の公開研究授業に取り組む。</p>

	<p>③力ある教員の養成に貢献する。</p> <p>④教育公務員としての自覚を持つ。</p>	<p>③－1 新規採用教員や若手教員の育成を、学年を越えて行う。</p> <p>③－2 教育実習生や教職大学院生など、後輩の育成を通して自らの教師力を伸ばす。</p> <p>④－1 服務事故者を絶対出さない。そのために、服務に厳しい職場をつくる。</p> <p>④－2 人権尊重・人間尊重の意識を常にもって行動する。</p>
--	--	--

(3) 目標および達成のための方策〔行政系〕

具体的な目標		
	何を	どの程度まで
職務目標	<p>①予算・決算</p> <p>②会計</p> <p>③教材・教具</p> <p>④食育に関する指導</p> <p>⑤安全管理</p> <p>⑥地域との連携</p> <p>⑦服務規律・職場のルール</p>	<p>①－1 無駄のない予算執行に努め、「欲しいものは購入しない。」「必要なものを購入する。」を徹底する。</p> <p>①－2 改めて、校内の事業仕分けを行う。</p> <p>②－1 会計事故を絶対起こさない。</p> <p>②－2 学年会計簿の監査を徹底する。</p> <p>③－1 有効活用と廃棄手続き等を確実に行う。</p> <p>③－2 責任者を明確にし、備品管理を徹底する。</p> <p>④－1 食育の指導計画に沿った新たな教育活動を開発する。</p> <p>④－2 家庭への啓発活動を工夫する。</p> <p>⑤－1 定期的な学校の施設・設備の点検を行い、改善計画を立てる。</p> <p>⑤－2 食中毒など事件・事故を起こさない。</p> <p>⑥－1 さわやかな電話・窓口の対応に心がける。</p> <p>⑥－2 地域との交流給食等を推進する。</p> <p>⑦－1 服務の厳正について、徹底を図る。</p> <p>⑦－2 職責に応じた指導と助言を行う。</p>
能力開発目標	<p>①法令や制度の改正等について学習する。</p> <p>②職務に必要な知識・技能を高める。</p> <p>③一歩進んだ仕事の実現に取り組む。</p>	<p>①－1 全教職員に周知徹底できるようにする。</p> <p>①－2 新しい情報の提供と周知に努める。</p> <p>②－1 研修会等に積極的に参加する。</p> <p>②－2 研修会で学んだことを、実践に生かせるような手立てを考える。</p> <p>③－1 新たな取組に挑戦する。</p> <p>③－2 意欲ある職場の雰囲気づくりに務める。</p>